慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ドイツ語の複数形について
Sub Title	Neuere Forschungen zur Substantivflextion (Pluralbildung)
Author	兒玉, 彦一郎(Kodama, Hikoichiro)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1990
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.57, (1990. 3) ,p.180(95)- 194(81)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00570001-0194

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ドイツ語の複数形について

兒玉彦一郎

0. はじめに。

ドイツ語の名詞は性・数・格の範疇に関して語形変化するが，名詞自体の形態を考える場合，特に問題となるのは性の区別と複数形であろう。それは格変化が主に統語（Syntax）上の概念であり，格変化について問題となる場合，文法書を繙けば良いのに対し，性の区別と複数の語形が問題となる場合は，辞書（Lexikon）を繙かなければならないからである。つまり名詞の性の区別と複数形は辞書の領域であり，性と複数形に関してはその当該の単語に関する知識が必要となるからである。

本稿は辞書の名詞の語彙全体に関し，ドイツ語の名詞の性と複数形との関係について観察し，複数形における傾向を考察することを目的としている。即ち辞書の領域を文法の領域にすることが本稿の目的である。一般にドイツ語の名詞の複数形はある特定の形態素を付け，また，ある単語ではウムラウトさせることによって複数が示めされるが，本稿ではその複数形をまずゼロ型，e 型，er 型，en 型という四つのタイプを考察の対象とした上で，性と複数形の関係を明らかにしようと試みたものである。その際，外来語の s 型を用いるが，しかし外来語の s 型と特殊な複数形については考察の対象外である。

0. 1. 資料について。

既に Duden 10 巻本シリズの一冊である第 10 巻 Das Bedeutungswörterbuch（以下略して Duden と呼ぶ）に登録してある約 1 万 6 千の見出し語の内の（見落しがあったかもしれないが）全ての名詞を対象とし，

その名詞全てを基礎語彙と看做して分布を調べ，報告した事がある。本稿略は更に約4万の見出し語の「アルファ独和辞典」(三修社，1989)(以下，して「アルファ」と呼ぶ）を資料(「アルファ」の語彙は Klett 社の Pons-Kompakt-wörterbuch Deutsch-English, 1985 を基にしている）とし，Duden の資料を補い，名詞の分布と傾向を調べたものである。従って，資料の扱い方，資料の分類の仕方については「アルファ」に従った。また本資料についておかしいと思われる項目については Universal を参考にした（従って単語に関してはその都度 Universal の該当項目を参照のこと。この場合は特に断りを入れていない。)。

以下，

分布について

傾向について

また女性名詞，男性名詞，中性名詞の順で述べる。女性名詞であることを表わす定冠詞の die は e と略す。同様に男性名詞は r，中性名詞は s で表わす。

1. 女性名詞について。

1. 1. 分布について。

ゼロ型では外来語と数や単位を表わす名詞を除き，Duden になくて「アルファ」で現われた名詞は e Flak. e Handvoll. の2語である。e Flak. は Universal に拠れば e Flug (zeug) abwehrkanone. の Kurzwort である。また e Handvoll. は eine Hand voll から生じたものである。[(1)] 従って，このクラスに属する主な女性名詞は e Mutter. e Tochter. の2語とその複合語だけということになる。

e 型では女性名詞が少数である。Duden になくて「アルファ」で現われた名詞は e Trübsal. e Brunst. e Herkunft. e Luft. e Sehnsucht. e Sucht. e Wulst. の7語である。このうち e Herkunft. は -kunft を基礎としており，これは Duden にあった。また e Brunst. e Herkunft.

e Luft. e Sehnsucht. e Sucht. は Duden では複数形がない名詞として登録され，e Wulst. は男性名詞としてしか登録されてなかった。従って，これらの名詞を加えたとしても，31語にしかならない(合成語を含めない)ので，女性名詞のなかでは少数派であると考えられる。なお，e Zuflucht. は Duden ではこのクラスに属する名詞として登録されているが，「アルファ」では en 型として登録されている。

e 型のバリエーションとして se 型がある。Duden になくて「アルファ」で現われた女性名詞は，全て -nis で終る名詞であった。従って，このクラスに属する名詞は主に -nis で終る女性名詞であると考えられる(その逆は成り立たない)。なお，Kosinus が女性名詞であるというのは誤りであろう(Klett の辞書も同様である)。

er 型の女性名詞はなかった。

en 型には n 型も含める。女性名詞の n 型には語形上の特徴があり，それは -e, -el, -er で終るということである。この特徴は男性名詞・中性名詞でも当てはまるが，女性名詞には -e があるのに対して，男性名詞・中性名詞にはなく，また男性名詞・中性名詞には -en があるのに対して，女性名詞にはないことに注意する必要がある。この特徴は -e, -e , -en, -er に更に -e を加えることは出来ない，という規則にまとめることが出来るであろう。従って，-e, -el, -er で終る女性名詞の場合には複数を示すために -en ではなく，形態素 -n を付け，-el, -en, -er で終る男性名詞・中性名詞には -e ではなく，形態素 -φ を付け，いわゆるゼロ型となるわけである。例えば[(2)] Spachtel, Spatel の 2 語は同じ意味であるのに，性が男性・女性名詞と異なっている。この場合も男性名詞ならばゼロ型であり，女性名詞ならば n 型である。また Kiefer, Leiter, Mangel, Otter, の 4 語は性が男性・女性名詞と異なっており，意味も性に対応して異なっている。この場合も男性名詞ならばゼロ型であり(Mangel はウムラウトもする)，女性名詞ならば n 型である[(3)]。また Koppel, Partikel, Steuer 3 語は性が中性・女性名詞と異なっており，意味も特に対応して異なっている。この場合も中性名詞ならばゼロ型であり，女性名詞ならば n 型である。

従って女性名詞の大多数は複数形としては en 型に（n 型も含めて）属することになる。

ウムラウトについては，ゼロ型の女性名詞では e Mutter. e Tochter の2語とその複合語だけがウムラウトする。e 型の女性名詞では e Mühsal. e Trübsal. の（-sal で終る女性名詞もこのクラスに属するかもしれないが）2語以外全てウムラウトする。en 型（n 型も含めて）の女性名詞では，e Werkstatt. e Feistatt. の2語とその複合語だけがウムラウトし，他はしない。この2語にはそれぞれ e Werkstätte. e Feistätte. の別形がある。従って女性名詞の大多数はウムラウトしない，と言える。

結論として，女性名詞の大半は en 型に（n 型も含めて）属し，ウムラウトしない，ということになる。

1. 2. 傾向について。

例証として数は少ないが「アルファ」なかの女性名詞で，複数形に揺れがある名詞を調べることによって，女性名詞の傾向を見てみる。

まず s 型の女性名詞で複数形の揺れがある名詞は e Order. e Reling. e Tornee. の3語である。e Oder. e Tornee. の複数形はそれぞれ Ordern, Torneen である。e Reling. は Universal に拠れば複数形は一般に s 型であり，seltener で -e もあり得るが，複数形がそもそも〈selten〉である。

また方言で複数形の揺れがある名詞は e Saison. と e Creme. の複合語である。Universal に拠れば e Saison. は南ドイツ，オーストリアで複数形が Saisonen になる。また e Creme. は Universal に拠ればスイスで複数形が Cremen となる。

辞書の記述で「まれに」とある女性名詞のなかで，-e, -ik, -keit, -ung, など女性名詞を現わす特定な接尾辞をもたない名詞は e Heimat. e Moral. の2語で，これらの複数形はそれぞれ Heimaten, Moralen である。

ここでも例証として数は少ないが，結論として，女性名詞の大半は en 型に（n 型も含めて）属し，ウムラウトしない，ということになる。

2. 男性名詞について。

2. 1. 分布について。

ゼロ型では -s で終る外来語と通貨・物理などの単位を表わす名詞を除き，Duden になくて「アルファ」で現われた名詞は r Fonds. r Lotos. の2語である。また r Kohlrabi. の複数形には s 型の別形がある。また r Krimi. は Universal に拠れば r Kriminalfilm. r Kriminalroman. の Kurzform で，複数形には s 型の別形がある。従って，このクラスに属する主な男性名詞は -el, -en, -er で終る名詞ということになる。

e 型で Duden になくて「アルファ」で現われた名詞は多数であったが，特性は見つけられなかった。

e 型のバリエーションとして se 型がある。Duden になくて「アルファ」で現われた男性名詞は，r As「古代ローマの貨幣・重量単位」以外，全て -us, -is で終る外来語であった。従って，このクラスに属する名詞は主に -us, -is で終る外来語であると考えられる（その逆は成り立たない）。

er 型の男性名詞で，Duden になくて「アルファ」で現われた名詞は r Bösewicht. 1語である。この単語の複数形には s 型の別形がある。従って，このクラスに属する名詞は r Bösewicht. を含めて14語であり，集合としては閉じていると考えられる。

en 型には n 型も含める。男性名詞の n 型には語形上の特徴があり，それは -e で終るということである。この特徴は男性名詞・中性名詞でも当てはまる。男性名詞の場合，このクラスに属する名詞は「男性弱変化名詞」と呼ばれている名詞か，または名詞の「混合変化」とも呼ばれている名詞である。

「男性弱変化名詞」で Duden になくて「アルファ」で現われた名詞は多数あり，これらは国・地域名をもった「人間」や「動物」などを意味する名詞であった。

「混合変化」では r Dampfaff. r Fasan.* r Fink.* r Firn. r Forst. r Gurt.* r Hader. の7語と複合語であった。この内，r Dampfaff.

r Fink. の2語には「男性弱変化名詞」の別形があり，r Fasan. r Firn. r Forst. r Gurt. の4語にはe型の別形がある。また r Hader. にもゼロ型の別形がある。従って -or で終る名詞を除いて，このクラスに属する名詞はこれらの7語を含めても37語であるが，別形のない名詞では14語であり，集合としては閉じていると考えても良いだろう。r Name. などの名詞はそのままである。

2. 1. 1. ウムラウトについて。

ゼロ型の男性名詞では Duden になくて「アルファ」で現われた名詞は r Hammel. r Handel. の2語であるが，Duden では r Handel. と Händel. が別の見出し語になっている。また r Hammel. は Universal に拠れば，その複数形 Hämmel は seltener である。このクラスも集合として閉じていると考えられる。

e型で Duden になくて「アルファ」で現われた名詞で，-pfで終らない名詞は以下の20語である。*. はここではウムラウトしない場合があることを示す。

r Altar. r Ausschank. r Auswuchs. r Bausch.*. r Bub.*. r Herzog.*. r Hub. r Marschall. r Propst. r Punsch.*. r Morast.*. r Schalk.*. r Schall.*. r Schaum. r Schacht. r Schlamm.*. r Schlot.*. r Schub. r Spat.*. r Wanst.

なお，r Wanst. には中性名詞の別形がある。

e型で言える事は -pf に終る名詞がこのクラスに属するということである。-pf で終って，このクラスに属さない名詞は s Geschöpf. r Hansdampf. r Untershlupf. の3語である（r Dampf. はウムラウトする）。Universal に拠れば r Unterschlupf. の複数は selten とのことである。ただし，r Schimpf. はウムラウトできないし，また複数形もない。

er 型ではウムラウト可能な名詞は全てウムラウトする。

en 型はウムラウト可能な名詞であってもウムラウトしない。

2. 2. 傾向について。

「アルファ」なかの男性名詞で，複数形に揺れがある名詞を調べ，男性名詞の傾向を見てみる。

2. 2. 1. s型の揺れについて。

s型の男性名詞で複数形の揺れがある名詞は全部で60語あった。これらのパターンは主にゼロ型とs型，及びゼロ型とe型の2通りある。「男性弱変化名詞」とs型との揺れがある名詞は r Fatzke. 1語だけである。r Keks. は -s で終る名詞であるので，ゼロ型とe型の間で揺れる。r Keks. には中性名詞の別形がある。

2. 2. 1. 1. ゼロ型とs型の揺れについて。

このクラスに属する名詞は以下の10語である。

r Bengel. r Eskimo. r Hindu. r Israeli. r Kohlrabi. r Kumpel.
r Paprika. r Poster. r Straßentunnel. r Tunnel.

この内，r Eskimo. r Hindu. r Israeli. r Kohlrabi. r Paprika. は外来語である。

また，r Bengel. r Poster. r Straßentunnel. r Tunnel. の4語は -el, -er で終る男性名詞であり，-el, -en, -er で終る男性名詞・中性名詞型は一般に -e を付加しないで，このクラスに属する。r Poster. には中性名詞の別形がある。

r Kumpel. は口語でs型となる。

2. 2. 1. 2. e型とs型の揺れについて。

このクラスに属する名詞は以下の26語とその複合語である。

r Balkon. r Ballon. r Bisam. r Biskuit. r Block. r Boykott. r Clan.
r Frack. r Galopp. r Kabeljau. r Kai. r Karneval. r Krepp.
r Leutnant. r Lunch. r Lift. r Ölscheich. r Ozelot. r Park. r Pier.
r Pudding. r Skat. r Sketch. r Spleen. r Stau. r Test. r Toast.
r Zappeliphilipp.

この内， r Block. と r Frack. はそれぞれウムラウトして Blöcke,

Fräcke となる。r Lunch. と r Sketch. はｓ型の場合，-[e]s である。r Biskuit. には中性名詞の別形がある。

またｅ型とｓ型の間に揺れがあるが，ｓ型が優勢である名詞は以下の９語とその複合語である。e型の場合 r Schall. はウムラウトすることもある。

r Karton. r Schal. r Schall. r Scheck. r Schock. r Spurt. r Start. r Tank. r Wrack.

2. 2. 1. 3. まとめ。

ｓ型の揺れについては男性名詞の場合，-el, -en, -er で終る名詞でなければ，主にｅの型に属する，といっても良いであろう。

2. 2. 2. 種類の揺れについて。

辞書の記述で「種類を表わす」ときのみに複数形を持つ名詞が17語あった。

ゼロ型の名詞は以下の４語である。これらは，-en, -er で終っている。

r Pfeffer. r Roggen. r Weizen. r Zucker.

ここでも -el, -en, -er で終る男性名詞・中性名詞型は一般に -e を付加しないという規則が当てはまる。

ｅ型の名詞は以下の10語である。

r Alkohol. r Beton. r Honig. r Kalk. r Reis. r Sand. r Speck. r Wein. r Tabak. r Zement.

この内，r Beton. はｓ型にも属する。r Zement. には中性名詞の別形がある。

ｓ型の名詞は以下の３語である。

r Kakao. r Kaffee. r Tee.

r Kaffee. は Universal に拠って分類した。

従って，「種類を表わすときのみ」の揺れについては男性名詞の場合，-el, -en, -er で終る名詞でなければ，主にｅ型に属する，といっても良いであろう。

方言の揺れについて。方言で複数形の揺れがある名詞は全てe型とs型の間で揺れを示す語である。

e型とs型の間で揺れを示す名詞は r Bräu. r Fasching. の2語である。s型が優勢である名詞は r Frisiersalon. の1語である。

2. 2. 4.「まれに」の揺れについて。

辞書の記述で「まれに」複数形を持つ名詞が32語あった。

ゼロ型の名詞は以下の3語である。これは -en, -er で終っている。

r Husten. r Schimmer. r Schnupfen.

ここでも -el, -en, -er で終る男性名詞・中性名詞型は一般に -e を付加しないという規則が当てはまる。

e型の名詞は以下の18語の名詞とその複合語である。

r Abschied. r Alltag. r Anhalt. r Appetit. r Ausgliech. r Brei.
r Erwerb. r Gemahl. r Hauch. r Humor. r Nord. r Ost. r Schmuck.
r Schreck. r Süd. r Tausch. r Tod. r West.

「まれに」ついては男性名詞の場合, -el, -en, -er で終る名詞でなければ, 主にe型に属する, といっても良いであろう。

2. 2. 5. まとめ。

以上, 揺れについて見てきたが, 男性名詞の場合, -el, -en, -er で終る名詞でなければ, 主にe型に属属し, ウムラウトしない, といっても良いことになる。

3. 中性名詞について。

3. 1. 分布について。

ゼロ型では -s で終る外来語, 音楽・物理などの単位を表わす名詞, 色を表わす名詞を除き, Duden にはなく「アルファ」で現われた名詞は s Abc. s Manöver. の2語である。また s Finale. には複数形としてs型の別形がある。これらの他にまだこのクラスに属する語があるかもしれ

ないが，それらは外来語であると考えられる。従って，このクラスに属する主な男性名詞は -el, -en, -er で終る名詞ということになる。

e 型で Duden になくて「アルファ」で現われた名詞は多数であったが，特性は見つけられなかった。

e 型のバリエーションとして se 型がある。Duden になくて「アルファ」で現われた中性名詞は，全て -nis で終る外来語であった。従って，このクラスに属する名詞は主に -nis で終る外来語であると考えられる（その逆は成り立たない）。

er 型の中性名詞で，Duden になくて「アルファ」で現われた名詞は s Hospital. s Stift. s Wams. s Wanst. の 4 語である。この内，s Hospital. の複数形には e 型の別形がある。また s Stift. に関しては er 型はまれであり，一般的には e 型である。s Wams. は単語自体が古い。更に s Wanst. には男性名詞の別形がある。従って，このクラスに属する名詞は s Hospital. を含めて61語であり，集合としては閉じていると考えても良いだろう。

en 型には n 型も含める。中性名詞の n 型には語形上の特徴があり，それは -e で終るということである。この特徴は男性名詞・中性名詞でも当てはまる。中性名詞の場合，このクラスに属する名詞は名詞の「混合変化」とも呼ばれている名詞である。「混合変化」で，Duden になくて「アルファ」で現われた名詞は s Chromosom. s Elektron. s Eck. s Gör. s Ion. s Neutron. s Proton. s Quant. s Stott. の 9 語であった。この内，s Eck. s Stott. の 2 語には複数形として e 型の別形がある。従って，このクラスに属する名詞はこれらの 9 語を含めても21語であるが，別形のない名詞では17語であり，集合としては閉じていると考えられる。

3. 1. 1. ウムラウトについて。

ゼロ型の中性名詞では s Kloster. s Wasser. の 2 語とその複合語だけである。

e 型の中性名詞では s Floß. とその複合語だけである。

er 型ではウムラウト可能な名詞は全てウムラウトする。

それに対して en 型はウムラウト可能な名詞であってもウムラウトしない。

中性名詞はウムラウトに関して閉じていると考えらる。

3. 2. 傾向について。

「アルファ」なかの中性名詞で，複数形に揺れがある名詞を調べ，中性名詞の傾向を見てみる。

3. 2. 1. s 型の揺れについて。

s 型の中性名詞で複数形の揺れがある名詞は全部で39語あった。これらのパターンは主にゼロ型と s 型，及びゼロ型と e 型の 2 通りある。s Keks. は -s で終る名詞であるので，ゼロ型と e 型の間で揺れる。s Keks. には男性名詞の別形がある。

3. 2. 1. 1. ゼロ型と s 型の揺れについて。

このクラスに属する名詞は s Ach. s Finale. s Regime. s Ich. s Poster. の 5 語である。

この内，s Ach. s Ich. の 4 語は「中性名化」した名詞であり，色を表わす形容詞の「中性名詞化」（例えば s Blau.）した名詞もここに含まれる。s Finale. s Regime. s Poster. は外来語である。また，s Poster. は -er で終る中性名詞であり，-el, -en, -er で終る男性名詞・中性名詞型は一般に -e を付加しないので，このクラスに属する。s Poster. には男性名詞の別形がある。また s Regime. はゼロ型と s 型の間に揺れがあるが，ゼロ型が優勢である。

3. 2. 1. . e 型と s 型の揺れについて。

このクラスに属する名詞は以下の33語とその複合語である。

s Aktiv. s Biskuit. s Biwak. s Couvert. s Fazit. s Gu!asch. s Heck.
s Kaff. s Kakussel. s Kollektiv. s Kuvert. s Labor. s Lebewohl.
s Maleur. s Mammut. s Match. s Parfüm. s Picknick. e Reck.
s Relief. s Rückstau. s Schrapnell. s Schwimmdock. s Zyklotron.

s Biskuit. には男性名詞の別形がある。

及び -ett で終る名詞：

s Brikett. s Büfett. s Bukett. s Etikett. s Jackett. s Kabarett.

s Klosett. s Korsett. s Parkett. s Roulett.

またe型とs型の間に揺れがあるが，s型が優勢である名詞は s Deck. s Dock. s Kotelett. s Tablett. の4語とその複合語である。

3. 2. 1. 3. まとめ。

s型の揺れについては中性名詞の場合，-el, -en, -er で終る名詞でなければ，主にe型に属する，といっても良いであろう。

3. 2. 2. 種類の揺れについて。

辞書の記述で「種類を表わすときのみ」に複数形を持つ名詞が7語あった。

e型の名詞は以下の5語である。

s Bier. s Mehl. s Pech. s Wachs. s Zement.

s Zement. には男性名詞の別形がある。

er型の名詞は s Unkraut. だけである（ウムラウトする）。

s型の名詞は s Gummi. だけである。これにはゼロ型の別形がある。

従って，「種類を表わすときのみ」の揺れについては，主にe型に属する，といっても良いであろう。

3. 2. 3. 方言の揺れについて。

方言で複数形の揺れがある名詞は2語でe型とs型の間で揺れを示す語である。

e型とs型の間で揺れを示す名詞は s Billett. の1語である。e型が優勢である名詞は s Billard. の1語である。

3. 2. 4.「まれに」の揺れについて。

辞書の記述で「まれに」に複数形を持つ名詞が3語あった。

ゼロ型の名詞は s Gelächter. だけである。
ここでも -er, -en, -er で終る男性名詞・中性名詞型は一般に -e を付加しないという規則が当てはまる。

e 型の名詞は s Lob. s Zweig. の 2 語の名詞であった。

3. 2. 5. まとめ。

以上，揺れについて見てきたが，中性名詞の場合，-el, -en, -er で終る名詞でなければ，主に e 型に属属し，ウムラウトしない，といっても良いことになる。

4. 結論。

本稿は約 4 万の見出し語の「アルファ独和辞典」を資料とし，Duden の資料を補い，名詞の分布と傾向を調べたものである。

分布に関しては既に見てきたように，er 型に属する名詞は少なく，中性名詞で61語，男性名詞で14語しかない。なお er 型に属する女性名詞はない。

語形上の特徴について，男性名詞は -el, -en, -er で終る名詞，中性名詞では更に suffix の -chen, -lein 及び Ge- -e の構造をもつ名詞の場合 -ϕ を付加し，ゼロ型となる。また男性弱変化名詞，女性名詞では -e で終る名詞の場合 -n を付加する。これらの場合，弱音の -e- が重要な役割を演じていると考えられる。この意味で，Russ の言うようにe型とゼロ型を一つにまとめ，-e, -el, -en, -er で終る名詞の場合，-e を付加したくても出来ないと考えれば，ゼロ型はこの語形上の特徴を考慮して，e 型のバリエーションと見ることも可能であろう。このように考えると，名詞の複数形のタイプとしては，e 型，en 型のこの二つのタイプしか残らなくなる（er 型に属する名詞は少ないので，また s 型は外来語なので対象から外す）。この意味で，分布から女性名詞は en 型のタイプであり，また（複数形に揺れ」から男性名詞・中性名詞は e 型のタイプであると考えられる。

ウムラウトについては，er 型ではウムラウト可能（a, o, u, au）な名詞

は全てウムラウトする。それに対して en 型はウムラウト可能な名詞であってもウムラウトしない（例外は e Werkstatt. e Reistatt. 2語）。ゼロ型は男性名詞では r Apfel など25語とその複合語だけがウムラウトする。ゼロ型は女性名詞では e Mutter. e Tochter の2語とその複合語だけがウムラウトし，中性名詞では s Kloster. s Wasser. の2語とその複合語だけがウムラウトする。e 型は女性名詞では全てウムラウトする（例外は e Mühsal. e Trübsal. 2語）が，その数はすくない。また中性名詞では s Floß. の1語だけがウムラウトする。従って，確率的にはウムラウトする名詞は男性名詞であると言う事も出来よう。しかし，全体としてみればウムラウトする名詞は限定されていると考えられる。

従って，女性名詞であれば，複数形として en 型のタイプであり，男性名詞であれば e 型のタイプであり，中性名詞であれば e 型のタイプであるという傾向がある。このことは，名詞の性が指定されれば複数形のタイプがきまるという意味で，構造化の傾向が見られるということも言えよう。

注

（1） 独和大辞典（小学館，1989）の該当項目を参照。
（2）「現代ドイツ文法」306，307ページ。
（3） 例外は r Fussel, -s/-[n] である。
（4） Deutsche Sprache 248ページ。

資料
アルファ独和辞典. 三修社 1989
Duden. Das Bedeutungswörterbuch. Mannheim 1985.
Duden. Deutsches Universalwörterbuch. Mannheim 1985.
Klett. Pons-Kompakt-wörterbuch Deutsch—Englisch. Stuttgart 1985.
参考文献
August : Untersuchungen zum Morpheminventar der deutschen Gegenwarts sprache. Tübingen 1977.
Duden : Die Grammatik. Mannheim 1984.
Bettelhäuser : Studien zur Substantivflexion der deutschen Gegenwartssprache. Heidelberg 1976.

Bornschein／Buff : Zum Status des s-Plurals im gegenwärtigen Deutsch. In : Linguistische Arbeit 182 1986.
Helbig／Buscha : Deutsche Grammatik. Leipzig 1986.
「現代ドイツ文法」（在間訳）三修社　1984.
Liebsch／Döring : Deutsche Sprache. Leipzig 1980.
橋本文夫「詳解ドイツ文法」 三修社　1976.
Mogdan : Flexionsmorphologie und Psycholingustih. Tübingen 1977.
Russ : Die Pluralbildung im Deutschen. In: Zeitschrift für germanistische Linguistik 17. 1 1989.
Sommerfeldt : Entwicklungstendenzen in der deutschen Gegenwartssprache. Leipzig 1988.
見玉彦一郎：「ドイツ語の複数形の分布について」 国学院大学外国語研究室　1990